

丸の内プラチナ大学「逆参勤交代」浜松市研修旅行記（2022.9.2~4）

2022年9月丸の内プラチナ大学「逆参勤交代コース」の浜松市ツアーに参加した。この大学は三菱総合研究所と三菱地所が主催する市民大学である。そして本コースは、三菱総研主幹の松田氏が主導するものだ。働き方改革と地方創生を同時に実現する構想に基づき、都心で働く社会人が少子高齢化や人口減少に悩む地方都市を訪問し、その歴史・伝統・生活・産業などを観察し、地方創生プランを地方自治体の組長に提案する内容だ。

さてコロナ禍で浜松市のフィールドワークは当初2021年12月であったが、2回延期され今回特別枠として実施された。家内の母の実家が天竜市（現在浜松市天竜区）だったこともあり、このコースに関心があった。なお松田智生著の「明るい逆参勤交代が日本を変える」（2021年出版）にその意義と構想の解説がある。

9/2（金）天気 曇り後雨

新幹線ひかりで浜松駅に着いたのは9:28だった。新横浜駅からわずか80分だ。駅前を散策したところ写真のような広告があった（写真参照）。来年のNHK大河ドラマの舞台が浜松だった。徳川家康は29歳から45歳まで浜松城を居城としていた。17年間に22回の戦闘で6回敗れたが、最後は天下人にまで出世した。浜松市は出世の街とPRしている。

10:00 市役所職員の小型バスで市庁舎に到着。企画課地方創生担当の幹部と挨拶を済ませた。その後市庁舎の隣にある浜



松城跡を見学した。来年の大河ドラマに合わせてドラマ館と天守閣の建設が進行していた。城内には家康と秀吉の銅像もあった（写真参照）

11時半から浜松市の北部地区（旧天竜市）に向かった。途中雨がひどくなり、スマホの警報音のピーピーが鳴り出した。14時まで浜松は台風の影響で線状降水帯に



はいり集中豪雨に見舞われていたのだ。天竜川の支流である阿多古川は増水して川岸は完全に水没

していた。ランチは畜産農家直営の「とんかつ」屋で頂いたが、雨は止まず激しくなるばかりだった。天気予報は大きく外れた。14時半頃やっと小降りとなり見学地である「阿多古屋」について。この宿は古民家を改造したものだ。林社長は、3年前にこの地に移住し、イベント企画運営とカメラに詳しい40歳の若手だった。事業は軌道に乗る資金繰りも安定し今後拡大するとのことだ。（写真参照）

天竜区に帰る途中、キャンプ敷地にテントサウナを昨年設営し爆発的人気を博している川沿いの駐車場に寄った。サウナ経営者の鈴木社長は元トラック運転手だったが、週末テントサウナを楽しみ、趣味が高じて起業したという。サウナでたっぷり汗を流して、そのまま横を流れる川に「どぶん」は最高に快感だという。今回テントサウナも研修コースに入っていたが、豪雨で中止となった。サウナ好きにはたまらない娯楽かもしれない。愛知県からのお客が多いそうだ。清流と適度な川岸と広い駐車場が揃わないとテントサウナ事業は難しそうだ。

15:00 天竜区を中心街に程近い天保線の二股駅に着いた。この駅舎は空き家になっていたのでもリノベーションして1室だけの宿屋になった。中谷社長は33歳で最近都会からUターンしてきた人物だった。創意工夫と勇気で企業する若者の話は非常に面白い。因みに天保線は1時間に1本の電車だが地元住民には不可欠なインフラだ。JRの合理化で払い下げられた路線だが、最近沿線でエバンゲリオンの動画撮影が行われたそうで、アニメファンにとっては新たな聖地とのことだ。



17時半 浜名湖の東部に位置する「はままつフルーツパーク時之栖」にチェックインした。浜松市営の果樹園公園の園内にあるテントが今夜の宿舎だった。（写真参照）

夕食は公園内のガーデンでBBQだった。逆参勤交代参加者とスタッフの少し長い自己紹介で盛り上がった。9時頃にお開きとなり公園施設の共同浴場に入った。浴場は天竜杉で作られた木の香りがする豪華な風呂だった。

9/3（土）天気 晴れ時々曇り

9:00 ホテルを出発して浜名湖の東側に位置する舘山寺展望台に向かった。展望台から湖上ロープウェイや360度浜名湖周辺の絶景が楽しめる。天皇ご夫妻（現上皇夫妻）もかつてお越しになったことがあるそうで、短歌を詠んだそうだ。（写真参照）





その展望台から徒歩 10 分ほどで「かんざんじ荘」を見学した。元国民宿舎をリノベーションし 2021 年グランドオープンした。浜名湖の夕焼けと朝焼けが絶景とのことだ。是非家族で再訪したいと思った。東名高速の三ヶ日 IC から降りて 15 分

なので東京からも至便だ。

その後「かんざんじ荘」の高橋社長とスポーツ科学支援ソフト開発会社「SPLYZA」の土井社長の創業経緯や経営哲学についてプレゼンテーションと質疑があった。ふたりの若手経営者の地方創生への熱い気概に感動した。

12:30

浜名湖を南進し村櫛海岸をドライブした。次の目的地は浜名湖の弁天島近くの「舞阪サテライトオフィス」だった。ここは浜松市に統合される前まで町役場であった。それをリノベして、浜松市のスタートアップ成長支援施設となった。ここで市の幹部から制度の説明を受けた。浜松市はベンチャー企業支援に民間ファンドが決めた先にほぼ同額を出資する制度も実施している。

15:00

遠州灘の防潮堤（地元企業的一条工務店が 300 億円寄付して最近 17 キロの防潮堤が完成した）と中田島砂丘を見学した。砂丘は映画のロケ地として利用されている。（写真参照）

16:00

浜松駅周辺の多目的ビルの中にある「コワーキングスペース」を見学した。地元信用金庫とタイアップしてスタートアップ企業を支援するオフィスだ。

そのあと税理士で新規事業プランナーの The Garage 社長の杉浦さんの講演を聞いた。自動車を移動の道具からオフィスする場に変えた改造自動車を拝見した。その他いろいろな新商品が陳列されており、イノベーション最前線を実感するガレージだった。



17:30 駅前ホテルの「北の庭 THE KURETAKESOU」チェックイン



18:00 「娯座楼」にて夕食と懇親会に参加した。鈴木市長と幹部も参加した。逆参勤交代研修ツアーでは2日目の夕食を自治体幹部と共に行うことが時々あるが、組長の参加は初めての経験だった。レストランシェフの軽妙洒脱でユーモアあふれる挨拶とメニュー説明と市長挨拶で盛り上がった。天皇陛下に提供したという「ニンニクの擦りおろし付きうなぎの白焼き」も頂いた。大変美味だった。

なお食事コースは浜松パワーフードと銘うって、浜松名産の野菜果物魚と肉の特別メニューだった。その目玉はウナギの白焼きだった。これと地元日本酒「En Shu」は絶妙に合った。(写真参照)



9/4 (日) 天気 晴れ時々曇り

ホテル朝食はバイキングだったが、なんと「うなぎ」が出てきた。ビジネスホテルの朝食メニューで初めてだ。さらに驚いたのはその美味なること。最近



は牛井チェーンでも「うなぎ」が食べられるが全く品質が違った。ウナギは浜名湖養殖であると思われた。(写真参照)

9:00 ホテル出発。

うなぎパイで有名な菓子メーカー「春華堂」本社を訪問した。昨年完成した本社ビルは地元信用金庫とのコラボレーションだ。テーブルと椅子をモチーフに13倍に拡大した建物だ。奇抜な設計で遊園地のような遊び心も兼ねた作品だ。この建物は大変好評で周辺地区に同様な商業施設が増えているそうだ。

(写真参照)

10:20 市長向け提案シート作成作業ため市公営の施設に入った。作成時限は12時までだった。私はこの講座参加が今回で4回目であり、事前準備もしていたので11時半に完成した。ランチはハンバーガーで済ませた。

13:00 受講生から一人4分の制限時間で、鈴木市長に地方創生プランが発表された。プランの基本ルールは主語が自分であることだ。評論家的なプランはNGなのが松田主幹の唱える逆参勤交代のモットーだ。

私は中高年向けのセカンドホーム推進プラン（長期滞在先）を提案した。2019年の埼玉県秩父市と長崎県壱岐市、2021年の京都府京丹後市でも同様の提案をした。浜松市が他と比べ断然有利な特長は交通至便であることだ。東京から車で3時間、新幹線なら90分で交流できる。そして海、川、山の幸に恵まれ、歴史遺産にも恵まれている。以下地方創生プランを紹介したい。(〇〇プロジェクトのみ抜粋)

- ① Hamamatu business School
- ② 職と農から浜松市の地域を活性化
- ③ Ch11 Snack (浜松起業化×都心の若手×音大生の交流)
- ④ ピンポイント食×SNSで浜松PR強化
- ⑤ 家康くん歴メシ
- ⑥ FE100 (食と再生可能エネルギーの豊かさアピール)
- ⑦ 第二住民票で天竜地域に関係人口増やす
- ⑧ ゆるキャン△聖地メシ
- ⑨ 浜松シニアセカンドホーム (HSSH)
- ⑩ 浜松出世ワーケーション、移住すると出世するテレワーク移住支援
- ⑪ Hamamatsu×Miyazaki 行き来イキイキ
- ⑫ 浜松一丸の内 事業創生

今回私の提案は当初手書きだったが、他の参加者はPC持参しておりパワポで作成され分かりやすかった。翌日パワポに仕上げ再提出した(以下参照)。

地方創生プラン 名前：西村康裕

所属団体名：(株)DDホールディングス

What：何をするか 〇〇プロジェクト	浜松シニアセカンドホーム プロジェクト (HSSH PJ) シニア世代の長期滞在先の環境整備を推進する
Why：なぜするか その理由 なぜこれが良いのか	1, シニア世代はこれまで働いてきた成果（預金・年金）を生かして快適な老後生活を夢見ている。 2, マレーシア政府は、10数年前移住と長期滞在先推進の政策を推進。実績NO1となったが、2021年移住政策転換とコロナ禍で日本人の滞在先として不遇となった。 3, 日本では長期滞在政策を推進する自治体は非常に少ない。シニアは移住は無理でも長期滞在ニーズは高いので是非推進して欲しい。
Who：私は何を担うか 社長、営業、広報	1, 長期滞在先の環境整備に関する政策立案・設計の助言（マレーシアでの長期滞在先選定経緯と体験） 2, 浜松市が国内で最適な地区であるとの宣伝広報
Whom：誰を対象にするか、ターゲット像	1, 環境整備の政策・企画設計は、市役所への提案 2, 宣伝広報は、家族、友人知人など。
How：どのように実現するか	1, 逆参勤交代のフィールドワークツアーでの提案 2, 話す（講演など）、書く・送る（FB, ホームページなど）

提案の背景であるマレーシア移住促進政策は、コロナ禍と政権交代で転換された。海外への移住先・長期滞在先としての魅力は大きく削がれた。浜松市は戦後産業都市として成長してきたが、今後は中高年のセカンドライフに快適な住環境整備を期待したい。

発表後に関係者一同で記念写真をとった（写真参照）。帰路浜松駅でうなぎを2尾買った。自宅でニンニクをすりおろしてうなぎを食べた。料亭の味は再現できなかったが十分美味だった。（2022.9.11 記す）

